

株式会社帝国ホテル 2025年3月期決算説明資料



IMPERIAL HOTEL

2025年5月13日 株式会社帝国ホテル（コード番号 9708 東証スタンダード）

2025年3月期決算説明資料



IMPERIAL HOTEL

目 次

連結経営成績

連結損益計算書

セグメント別

部門別実績

連結貸借対照表

連結キャッシュ・フロー計算書

連結業績予想

株主還元

中長期経営計画2036

今後の見通し

企業情報

連結経営成績



IMPERIAL HOTEL

単位（百万円）（注）以降の記載金額は百万円未満の端数を切捨てて表示しております。

	2025年3月期	2024年3月期	増減(金額)	増減(%)
売上高	52,610	53,335	△724	△1.4%
EBITDA ※1	4,045	5,813	△1,768	△30.4%
営業利益	1,590	2,839	△1,249	△44.0%
経常利益	2,062	3,296	△1,233	△37.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,585	3,377	△791	△23.4%
1株当たり 当期純利益	円 銭 21.79	円 銭 28.46	円 銭 △6.67	△23.4%

※1 EBITDAとは、経常利益に支払利息及び減価償却費を加えた利益指標であり、当社は「中長期経営計画2036」において同指標を定量目標として掲げております。

□ホテル・観光業界におきましては、好調な国内観光需要や円安を背景としたインバウンドの増加に加え、企業収益の改善に伴い法人需要が伸長するなど、堅調に推移いたしました。

□当社グループにおきましては、再開発に向けてタワー館の営業規模を縮小する中、拡大する国内個人消費や旺盛なインバウンド需要を獲得すべく、高品質、高付加価値な商品・サービスを提供いたしました。加えて、法人需要の回復を捉え営業活動を強化するなど、売上げと利益の増進に努めてまいりました。その結果、ホテル事業における売上高は前年を上回ることができました。

さらにオンラインモールを開設するなど、新しいビジネスモデルにも挑戦してまいりました。

連結損益計算書

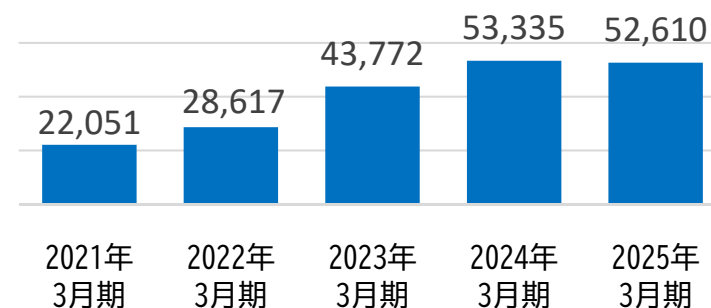


IMPERIAL HOTEL

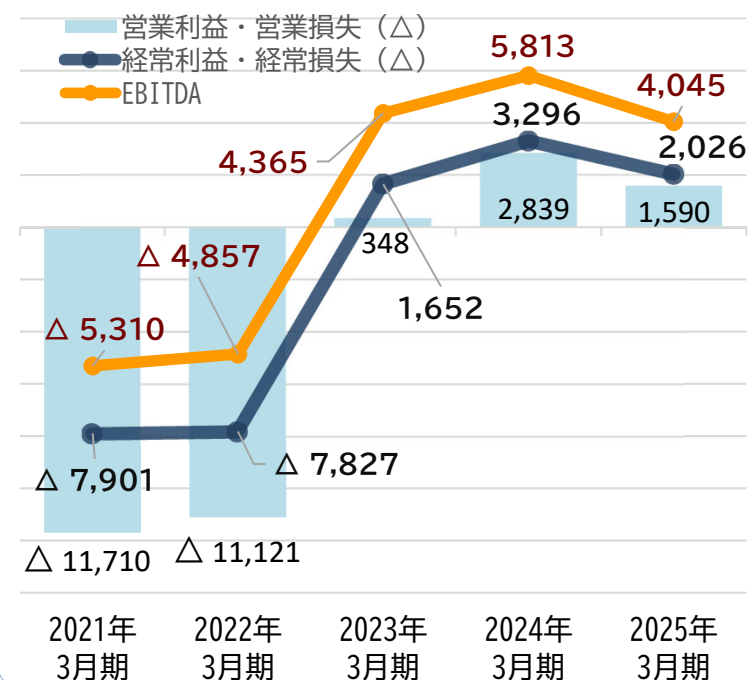
単位（百万円）

	2025年3月期	2024年3月期	増減	増減(%)
売上高	52,610	53,335	△724	△1.4%
材料費	10,707	11,033	△325	△3.0%
売上総利益	41,902	42,301	△398	△0.9%
販売費及び一般管理費	40,312	39,461	850	2.2%
営業利益	1,590	2,839	△1,249	△44.0%
営業外収益	487	463	23	5.0%
営業外費用	15	7	8	108.6%
経常利益	2,062	3,296	△1,233	△37.4%
当期純利益	2,585	3,377	△791	△23.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,585	3,377	△791	△23.4%
EBITDA	4,045	5,813	△1,768	△30.4%

売上高



営業利益・経常利益・EBITDA



セグメント別



IMPERIAL HOTEL

単位（百万円）

			2025年3月期	2024年3月期	増減	増減(%)
	ホテル事業	売上高	52,337	51,125	1,211	2.4%
		セグメント利益	4,658	4,855	△196	△4.1%
	不動産賃貸事業	売上高	276	2,219	△1,943	△87.6%
		セグメント利益	△253	408	△662	—
	調整額※1	売上高	△2	△9	7	—
		セグメント利益	△2,814	△2,424	△390	—
	連結財務諸表 計上額 ※2	売上高	52,610	53,335	△724	△1.4%
		セグメント利益	1,590	2,839	△1,249	△44.0%

※1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

※2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

部門別実績



IMPERIAL HOTEL

帝国ホテル本社

単位（百万円）

		2024年度	2023年度	増減	増減(%)
ホテル事業	宿泊	10,852	10,059	793	7.9%
	食堂	6,129	6,395	△265	△4.1%
	宴会	11,662	11,555	106	0.9%
	外販	2,699	3,185	△486	△15.3%
	その他	7,637	7,054	582	8.3%
不動産賃貸事業		1,625	3,751	△2,125	△56.7%
売上高合計		40,607	42,003	△1,395	△3.3%

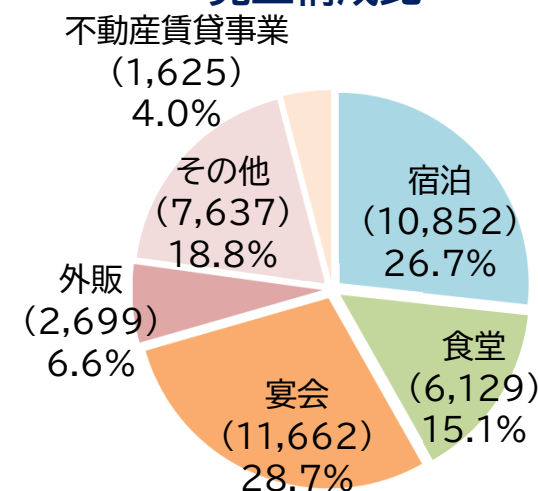
□宿泊は、国内会員顧客の安定的な利用に加え、円安を背景としたインバウンド需要の増加により、稼働率は前期比3.0ポイント増の67.8%、また、高単価販売に努めた結果、一室単価も前期比5.5%増の66,519円となり、売上高は前期比7.9%増の108億52百万円となりました。

□食堂は、『インペリアルバイキング サール』や『レ セゾン』などが好調でしたが、2024年6月に『ラ ブラスリー』が閉店した影響で売上高は前期比4.1%減の61億29百万円となりました。

□宴会は、一般宴会は件数は減少したものの、大型宴会の増加により売上増となりました。婚礼は件数の減少により売上減となりました。その結果、売上高は前期並みの116億62百万円となりました。



売上構成比



部門別実績



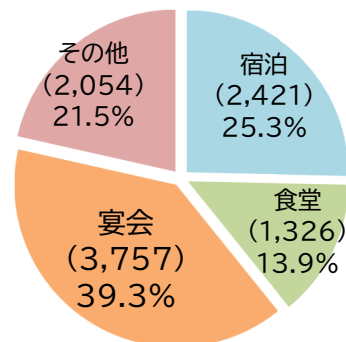
IMPERIAL HOTEL

帝国ホテル 大阪

単位（百万円）

	2024年度	2023年度	増減	増減(%)
宿 泊	2,421	1,947	474	24.4%
食 堂	1,326	1,257	69	5.5%
宴 会	3,757	3,966	△209	△5.3%
その他	2,054	1,963	90	4.6%
売上高合計	9,559	9,134	425	4.7%

売上構成比



- 宿泊は、アジアを中心に個人・団体客が好調に推移し、繁閑に合わせた価格政策の実施により、稼働率は前期比9.7ポイント増の59.2%、一室単価も4.3%増の29,655円となり、売上高は前期比24.4%増の24億21百万円となりました。
- 食堂は、稼働率の上昇に伴い朝食売上が増加したことに加え、高単価商品の販売が好調だったことから、売上高は前期比5.5%増の13億26百万円となりました。
- 宴会は、一般宴会は大型宴会の増加などにより売上増となりましたが、婚礼は少人数化が進み人数、件数が減少したことから売上減となりました。その結果、売上高は前期比5.3%減の37億57百万円となりました。

上高地帝国ホテル

単位（百万円）

	2024年度	2023年度	増減	増減(%)
売上高合計	1,899	1,686	213	12.7%

客室改修工事終了に伴い価格改定を実施したことや会員顧客向けに先行WEB予約を実施したことなどにより、客室稼働率は前期比1.3ポイント増の95.0%と高水準となり、食堂、売店も好調だった結果、上高地帝国ホテルの売上高は過去最高の18億99百万円となりました。

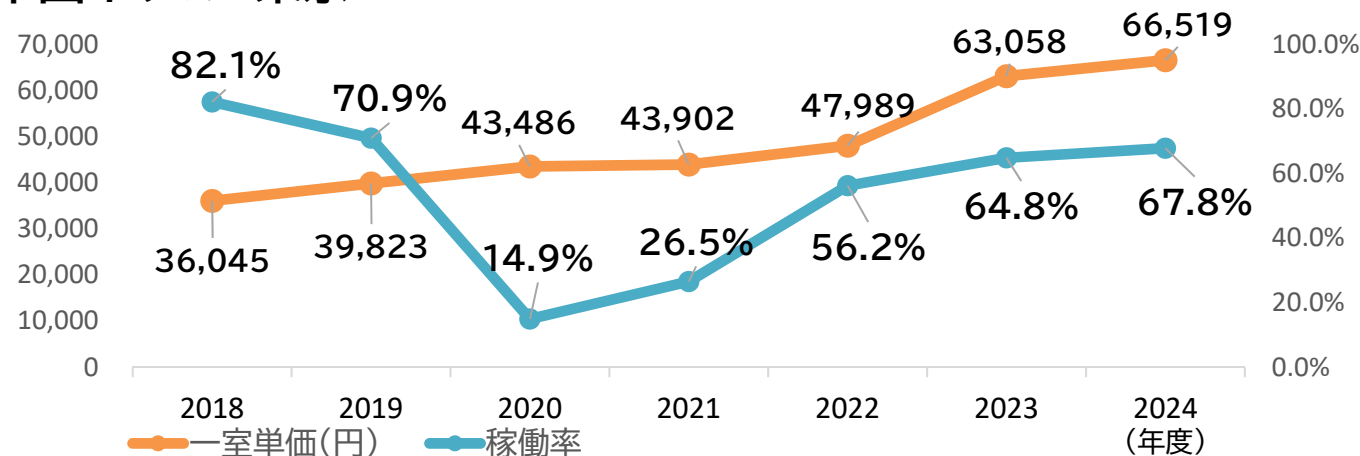


部門別実績補足（宿泊一室単価・稼働率）

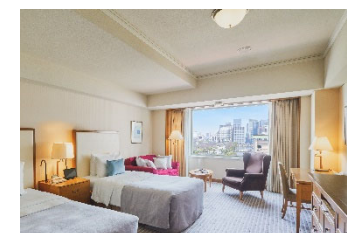
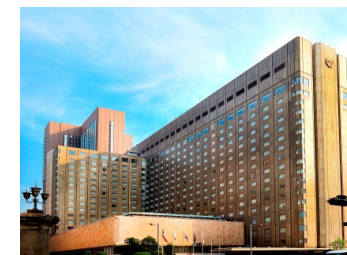


IMPERIAL HOTEL

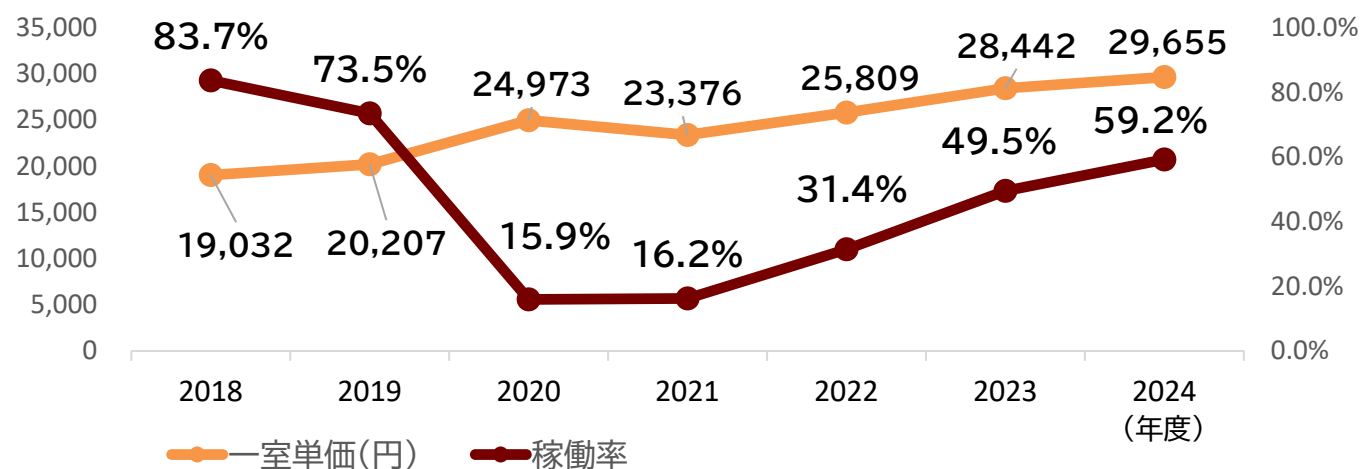
帝国ホテル 東京



※2021年度以降の宿泊一室単価並びに稼働率にはサービスアパートメントを含めておりません。



帝国ホテル 大阪



連結貸借対照表



IMPERIAL HOTEL

単位（百万円）

資産	2025年3月31日	2024年3月31日	前期末比	前期末比(%)	主な増減要因
流動資産合計	27,785	35,606	△7,821	△22.0%	有価証券の減少
固定資産合計	41,249	30,100	11,149	37.0%	有形固定資産の増加
資産合計	69,034	65,706	3,327	5.1%	
負債	2025年3月31日	2024年3月31日	前期末比	前期末比(%)	主な増減要因
流動負債合計	7,545	12,394	△4,849	△39.1%	未払金の減少
固定負債合計	16,141	10,276	5,865	57.1%	長期前受収益の計上
負債合計	23,686	22,670	1,016	4.5%	
純資産合計	45,347	43,036	2,311	5.4%	親会社株主に帰属する 当期純利益の計上
負債・純資産合計	69,034	65,706	3,327	5.1%	

自己資本比率	2025年3月31日	2024年3月31日	2023年3月31日
	65.7%	65.5%	64.8%

連結キャッシュ・フロー計算書



IMPERIAL HOTEL

2024年4月1日から2025年3月31日まで

単位（百万円）

	2024年度	2023年度	増減	増減(%)
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,063	4,201	2,861	68.1%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,137	△ 3,073	△11,064	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△724	△ 718	△6	—
現金及び現金同等物の期首残高	27,738	27,329	409	1.5%
現金及び現金同等物の期末残高	19,939	27,738	△7,799	△28.1%

連結業績予想



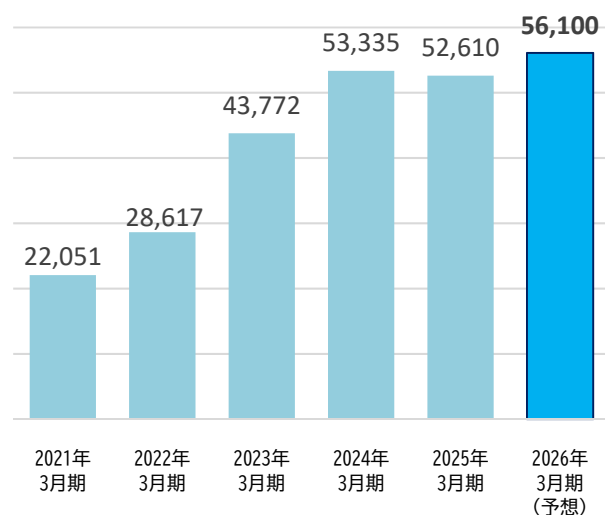
IMPERIAL HOTEL

単位(百万円)

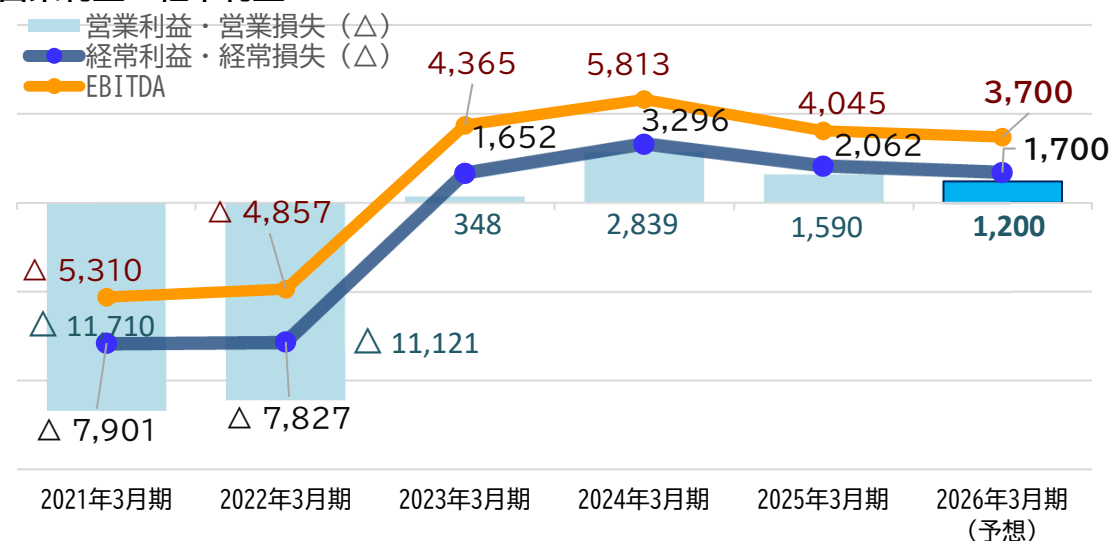
	2025年 3月期	2026年3月期(予想)			
		第2四半期(累計)		通期	
売上高	52,610	25,300	2.3%	56,100	6.6%
営業利益	1,590	△400	—	1,200	△24.6%
経常利益	2,062	△200	—	1,700	△17.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,585	△250	—	1,650	△36.2%
1株あたり当期純利益	21円79銭	△2.11		13円91銭	

%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率

売上高



営業利益・経常利益・EBITDA



株主還元



IMPERIAL HOTEL

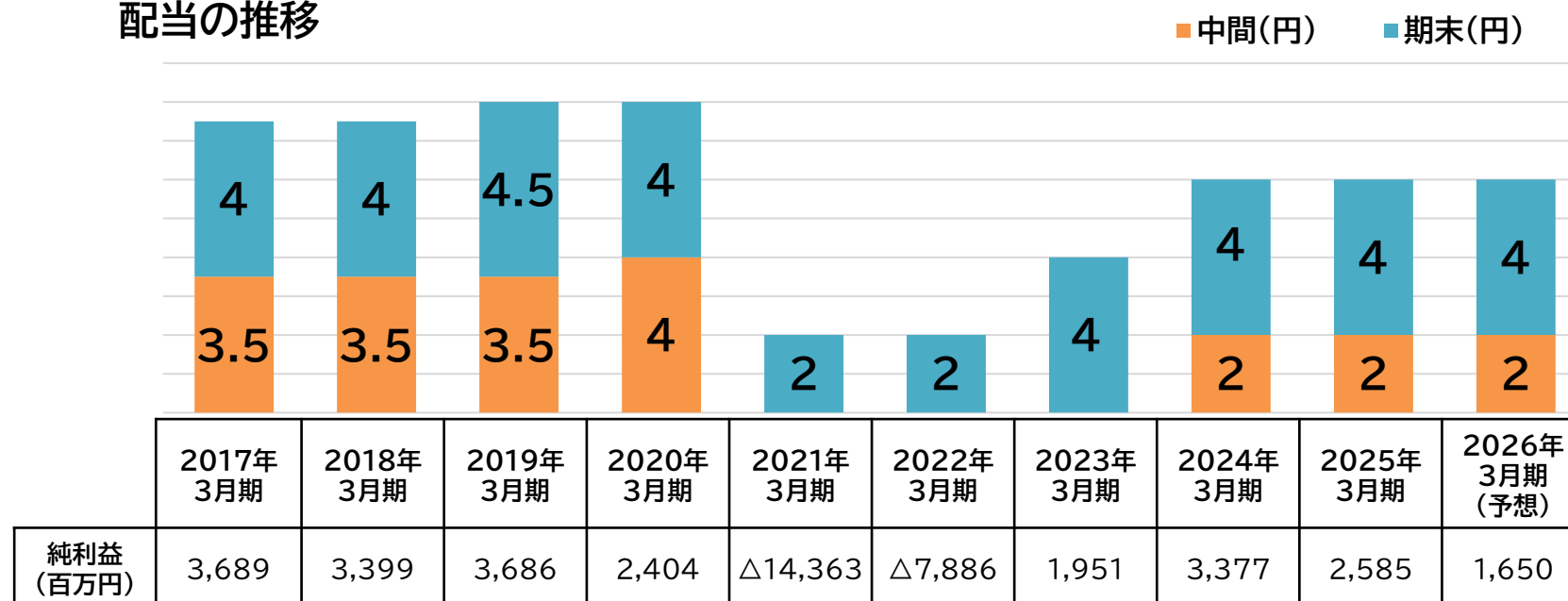
配当

当社は、長期に亘る安定的な経営基盤の確保による安定配当の継続を基本方針とし、株主の皆様への利益還元に努めてまいりたいと考えております。

2025年3月期は、業績並びに当社の基本方針を勘案し、株主の皆様の日頃のご支援にお応えすべく、期末配当を4円（中間配当2円と合わせて年間配当6円）とさせていただきますたく存じます。

また、2026年3月期の配当予想につきましては、今後も先行き不透明な状況が続くものと想定されますが、「帝国ホテル 京都」の開業など、当社の将来に向けたストーリーなどに対し高まる株主の皆様の期待にお応えするため、普通配当を1株につき6円（中間配当2円・期末配当4円）といたします。

配当の推移



株主優待制度

株主のみなさまの日頃からのご支援に感謝するとともに、当社商品やサービスに触れていただくことで当社事業へのご理解を一層深めていただくことと、当社株式への投資の魅力を高め、より多くのみなさまに中長期的に保有していただくことを目的に株主優待制度を新設いたしました。

対象となる株主様

毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された100株以上保有の株主様を対象といたし、年1回、当社の定時株主総会終了後（6月下旬）にお送りする「定時株主総会決議通知」に同封して発送する予定です。

株主優待の内容

保有株式数	優待内容（ホテルご利用券）	
	継続保有年数5年未満の株主様	長期保有者優遇制度 継続保有年数5年以上の株主様
100株以上300株未満	1,000円（1,000円券1枚）	
300株以上1,000株未満	3,000円（1,000円券3枚）	左記に+1,000円（1,000円券1枚）
1,000株以上2,000株未満	10,000円（5,000円券2枚）	左記に+5,000円（5,000円券1枚）
2,000株以上10,000株未満	25,000円（5,000円券5枚）	左記に+15,000円（5,000円券3枚）
10,000株以上	25,000円（5,000円券5枚） 宿泊1泊招待券	左記に+15,000円（5,000円券3枚）

※対象店舗等の詳細は弊社ホームページ（<https://www.imperialhotel.co.jp/financial/incentives>）をご覧ください。

中長期経営計画2036



IMPERIAL HOTEL

概要

ビジョン - 目指すべき姿 -

創業の精神を継ぐ「日本を代表するホテル」として、人を原点とする帝国ホテルブランドをより進化させる。
また、いかなる経営環境下においても企業継続できる体制を構築し、来る2040年の開業150周年を目指す。

フェーズⅠ 建て替え準備期間 (2022～2023年度)

サービスの最適化・見直しと
更なる向上

ウィズ/アフターコロナ期の外部
環境変化への柔軟な対応

⇒ コロナ禍からの早期回復を
目指す

フェーズⅡ タワー館建て替え 期間(2024～2030年度)

建て替え中の営業継続と
雇用の確保

東京事業所建て替えに伴う営業
スペースや要員数変動への対応

⇒ 営業継続と雇用確保を前提に
建て替え計画を着実に遂行

フェーズⅢ 本館建て替え期間 (2031～2036年度)

サービスの継承・更なる新たな挑戦

日比谷本館の万全な体制での
開業に向けて

⇒ 日本を代表するホテルとして
更なる飛躍を目指す

●2022年度 京都建設工事開始

★2026年春 京都開業
★2029年度 中地区宴会場・ホテル竣工
(※) ★2030年度 新タワー館竣工
●2024年度 現タワー館解体・新タワー館建築

●2031年度 現本館解体・新本館建築

ビジョン - 基本戦略 -

- ① グランドホテルの進化 : 日比谷本館建て替えによるハードウェア刷新と人材育成強化による
ヒューマンウェアの充実をもって当社ブランド力を高める
- ② 企業としての安定的成長 : 今後のホテル事業を盤石の体制とするため、不動産事業等の拡充により、
収益力・財務基盤の強化を図る
- ③ 社会的課題の解決 : 当社企業活動の全てについてSDGs貢献度を最大限向上させる

※内幸町一丁目街区全体の再開発計画の進捗状況等を踏まえ、2024年度に予定していた現タワー館の解体着手は実施
時期を再検討しております。

中長期経営計画2036



IMPERIAL HOTEL

定量目標

フェーズⅠ
(2022～2023年度)

コロナの影響は不透明だが、ニューノーマルへの対応や新規事業への積極的な取り組み、費用削減を徹底することで早期の黒字化及び最大限の収益向上を目指す。

フェーズⅡ
(2024～2030年度)

現本館単独営業期間はタワー館閉館による一時的な収益力低下が見込まれるが、財務計画に従い建て替え計画を着実に遂行する。

フェーズⅢ
(2031～2036年度)

新タワー館・中地区宴会場・ホテル開業後は主に不動産事業の拡充により収益力の大きな向上を目指す。

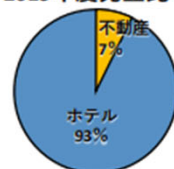
新本館開業後
(2037年度～)

不動産事業の拡充に加え、価値の向上した新本館の収益力強化により既存施設を上回る収益力を確保する。

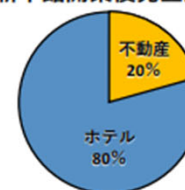
	(参考) 2019年度実績	現本館単独営業	新タワー館・ 中地区宴会場・ホテル営業	新本館開業後
売上目標	545億円	500億円以上	450億円以上	700億円以上
EBITDA目標	61億円	30億円以上	70億円以上	170億円以上

*上記は当社の中長期経営計画上の目標値であり、その実現を保証又は約束するものではありません

2019年度売上比率



新本館開業後売上比率



中長期経営計画2036



IMPERIAL HOTEL

フェーズⅡ タワー館建て替え期間(2024～2030年度) 建て替え中の営業継続と雇用の確保
東京事業所建て替えに伴う営業スペースや要員数変動への対応 ⇒ **営業継続と雇用確保を前提に建て替え計画を着実に遂行**

2024年度の主な進捗

1

グランドホテルの進化

重点課題：ハードの刷新と新規展開

2024年5月10日に公表のとおり、2024年6月末日処に営業終了を予定していたタワー館ホテル事業のうち、客室の一部及び宴会場についてはタワー館の解体工事着工までの間暫定的に営業を継続しております。客室についてはサービスアパートメントとしての営業終了後ホテル客室として販売を再開し、インバウンド需要を中心とした取り込み強化に努めた結果、宿泊売上は大きく伸長しホテル事業合計売上も前年を上回りました。

	帝国ホテル本社				帝国ホテル大阪			
	2023年度	2024年度			2023年度	2024年度		
	実績	実績	増減	増減(%)	実績	実績	増減	増減(%)
宿泊稼働率 ※	64.8%	67.8%		+3.0pt	49.5%	59.2%		+9.7pt
宿泊一室単価（単位：円） ※	63,058	66,519	+3,461	+5%	28,442	29,655	+1,213	+4%
宿泊売上（単位：百万円）	10,059	10,852	+793	+8%	1,947	2,421	+474	+24%
食堂売上（単位：百万円）	6,395	6,129	△265	△4%	1,257	1,326	+69	+6%
宴会売上（単位：百万円）	11,555	11,662	+106	+1%	3,966	3,757	△209	△5%
ホテル事業計（単位：百万円）	39,793	40,339	+546	+1%	9,134	9,559	+425	+5%

※ 本社の宿泊稼働率ならびに一室単価にはサービスアパートメントを含めておりません。

※ ホテル事業計の金額は、セグメント間取引の相殺消去後の数字であります。

中長期経営計画2036



IMPERIAL HOTEL

フェーズⅡ タワー館建て替え期間(2024～2030年度) 建て替え中の営業継続と雇用の確保
東京事業所建て替えに伴う営業スペースや要員数変動への対応 ⇒ **営業継続と雇用確保を前提に建て替え計画を着実に遂行**

2024年度の主な進捗

2 企業としての安定的成長

重点課題：現本館におけるリソース最適化と利益最大化

- 1971年に「帝国ホテルの味をご家庭で」をコンセプトに開店したホテルショップ「ガルガンチュワ」を本館1階の正面ロビー横に移転し、2024年8月8日にリニューアルオープンいたしました。リニューアルに伴い「ガルガンチュワサロン」を新設し、オーダーメイド商品や季節の贈答品などに関するお客様のご相談に、専任のコーディネーターが直接お応えするサービスも開始いたしました。
- 新規事業としてオンラインモール「ANOTHER IMPERIAL HOTEL」を2024年11月3日に開業いたしました。帝国ホテルの歴史を受け継ぐシェフやソムリエ、バーテンダーをはじめとするスタッフが日本各地の逸品をセレクト。生産者や作り手の想いとともにより商品を創り上げ、地域との共創を目指します。



重点課題：流動的な人材活用施策の継続

- 2024年10月に開業した三井不動産グループのシニアレジデンス「パークウェルステイト西麻布」における料飲サービス業務の運営受託を開始いたしました。

中長期経営計画2036



IMPERIAL HOTEL

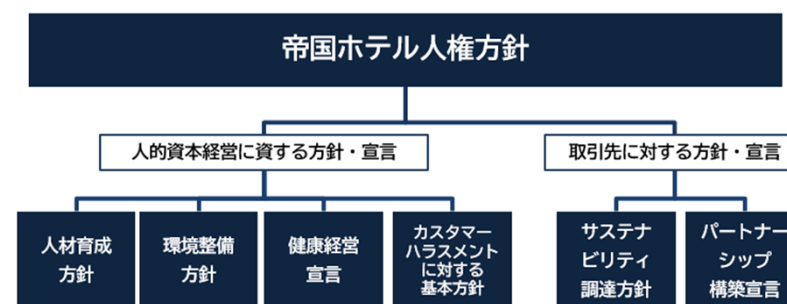
フェーズⅡ タワー館建て替え期間(2024～2030年度) 建て替え中の営業継続と雇用の確保
東京事業所建て替えに伴う営業スペースや要員数変動への対応 ⇒ 営業継続と雇用確保を前提に建て替え計画を着実に遂行

2024年度の主な進捗

3

社会的課題の解決

(1) 2024年4月1日に「帝国ホテル 人権方針」を策定・公表しました。人権を尊重する心を育む人権啓発活動を通じて、人権を尊重する企業文化の醸成と企業活動全般にわたる取り組みを推進しています。



(2) 健康経営に優れた企業として、「健康経営優良法人2025（大規模法人部門）」に、4年連続で認定されました。さらに、同部門の上位法人に付加されるホワイト500に初めて認定されました。



(3) 帝国ホテル 大阪にて、2025年日本国際博覧会協会が主催する参加型プログラム「TEAM EXP02025ー共創チャレンジ」に参画し、留学生支援コンソーシアム大阪（大阪観光局）、留学生の就労を支援するTranscend-Learningと連携し、留学生のインターンシップを実施しています。



中長期経営計画2036



IMPERIAL HOTEL

フェーズⅡ タワー館建て替え期間(2024~2030年度) 建て替え中の営業継続と雇用の確保
東京事業所建て替えに伴う営業スペースや要員数変動への対応 ⇒ 営業継続と雇用確保を前提に建て替え計画を着実に遂行

2024年度の主な進捗

3 社会的課題の解決

- (4) コーヒー豆かすによる食品リサイクルループ
帝国ホテル 東京において、宴会場やレストランで提供されたコーヒー抽出後の豆かすを、牛の飼料にリサイクルし、その飼料で育成された乳牛の牛乳を購入する再生利用事業計画（食品リサイクルループ）の取り組みを進めています。
当社とリサイクル業者、酪農家が協働して食品リサイクルループの認定事業者となり、新たなパートナーシップを構築することで、持続可能性に配慮したサプライチェーンの推進を図っています。



- (5) 廃食用油の航空燃料(SAF)へのリサイクル
廃食用油を原料として、持続可能な航空燃料（Sustainable Aviation Fuel：SAF）を製造することにより、脱炭素社会を目指すプロジェクト「Fry to Fly Project」に参加しています。
帝国ホテル 東京、帝国ホテル 大阪、ザ・クレストホテル柏で発生した廃食用油を回収し、製造されたSAFを航空燃料として使用します。
これにより、CO₂排出量をおよそ80%削減できます。ホテル業と親和性の高い、交通機関の脱炭素への取り組みの一助となることで、持続可能な観光を推進してまいります。



中長期経営計画2036



IMPERIAL HOTEL

サステナビリティ推進の各目標値と進捗

帝国ホテルはSDGs（持続可能な開発目標）を支援しています。

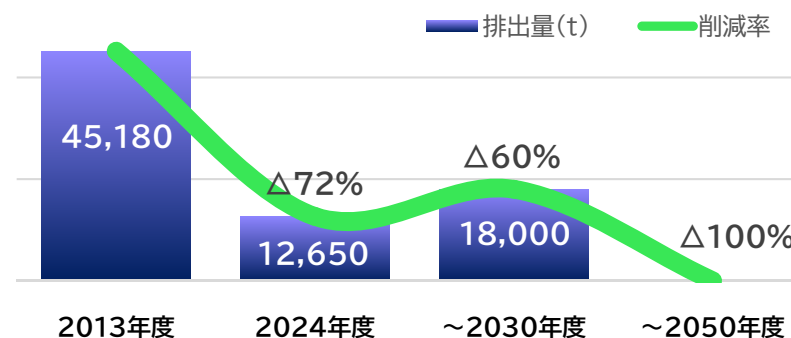


CO2排出量の削減

直営事業所におけるCO2排出量(Scope 1+2)を、2030年度までに(2013年度比)60%減、2050年度までに実質ゼロとする目標を掲げ、様々な施策を進めています。

さらなる省エネルギー活動の推進、再生可能エネルギーの導入を進めるとともに、再開発時の新ハードウェアへの最新技術導入により、環境負荷軽減に努めます。

帝国ホテル 脱炭素ロードマップ



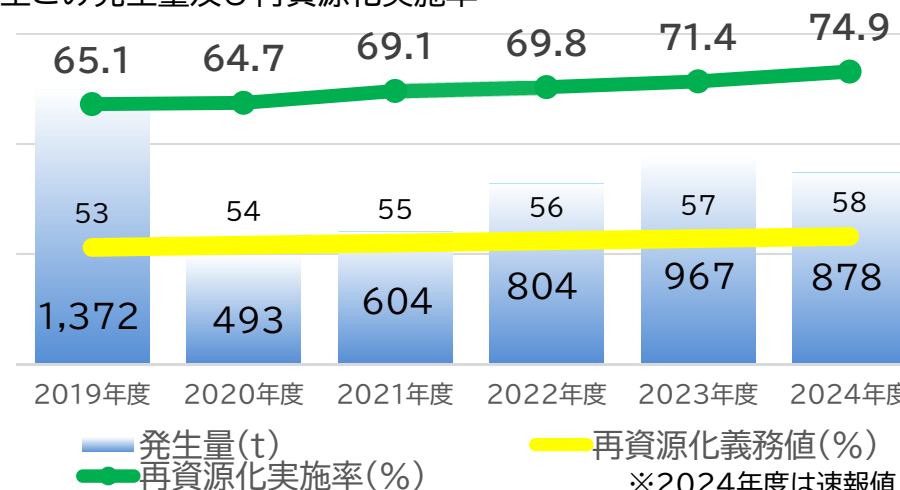
※2024年度は速報値

食品ロス削減

当社グループは「おいしく社会を変える」という考えのもと、「食品ロス削減」に力を入れています。食材仕入れの管理の徹底、調理時に食材を無駄なく使用する工夫など、各部門で取り組みを進めています。

なお食品リサイクル法に基づく生ゴミ再資源化実施率(直営4事業所合計)は、義務値達成を維持しています。

生ゴミ発生量及び再資源化実施率



※2024年度は速報値

中長期経営計画2036



IMPERIAL HOTEL

サステナビリティ推進の各目標値と進捗

帝国ホテルはSDGs(持続可能な開発目標)を支援しています。



人的資本と多様性の推進

当社グループは「人的資本経営」を実現するために、多様な人材の能力の最大化を図り、さまざまな取り組みを進めています。

「人的資本と多様性の推進」における5つのテーマ

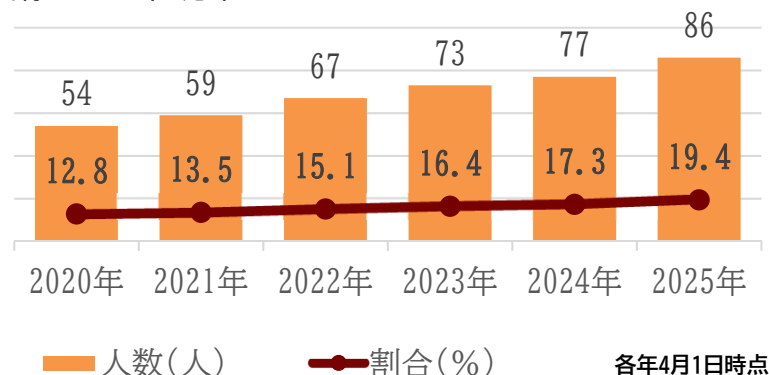
- ①多様性を組織の強みにする風土改革(対話の創出)
- ②働き方改革(生産性の向上)
- ③人材育成(人材への投資)
- ④健康経営(個の活性化)
- ⑤多様な人材の活躍
(女性・障がい者・高齢者・グローバル人材の活用)



	指標	目標値
育成	無期雇用従業員一人あたりの研修費	2027年度迄に2018年度比+30%
流動性	離職率	2027年度迄に2018年度比△20%
ダイバーシティ	採用した労働者に占める女性労働者割合	毎年50%以上
	男女の平均勤続年数差異	2027年度迄に4年未満
	障がい者雇用率	法定雇用率以上の水準を維持
その他	外国への派遣人数	2027年度には2018年度比+50%

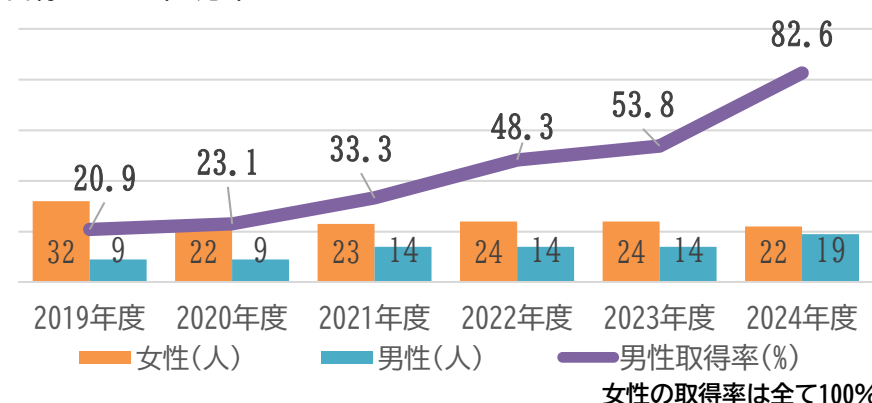
女性管理職者数・割合

目標：2027年4月末までに20%



育児休業者数・取得率

目標：2027年4月末までに75%



中長期経営計画2036

帝国ホテル再開発計画概要①

京都新規事業計画

2021年5月12日、京都・祇園甲部歌舞練場敷地内の弥栄会館の一部を保存活用した新規ホテル計画の実施を決定し、開業に向けた準備を推進してまいりました。

2024年度においてはホテル名称を「帝国ホテル 京都」に決定し、《京都のレガシー》と《伝統ある日本のホテルの最高のおもてなし》が掛け合わされた唯一無二の時間を過ごせる場所として、PRコンセプトを「次は、寛ぎの舞台へ」とすることを2025年1月29日に発表しました。

また、2025年4月1日付で独立した組織体制を立上げ、総支配人に坂田玲子、料理長に今城浩二が就任いたしました。

規模	地上7階、地下2階
主要用途	ホテル(55室)、レストラン、バー、ウェルネス施設(スパ、プール、フィットネスジム)他
竣工時期	2025年10月
開業時期	2026年 春



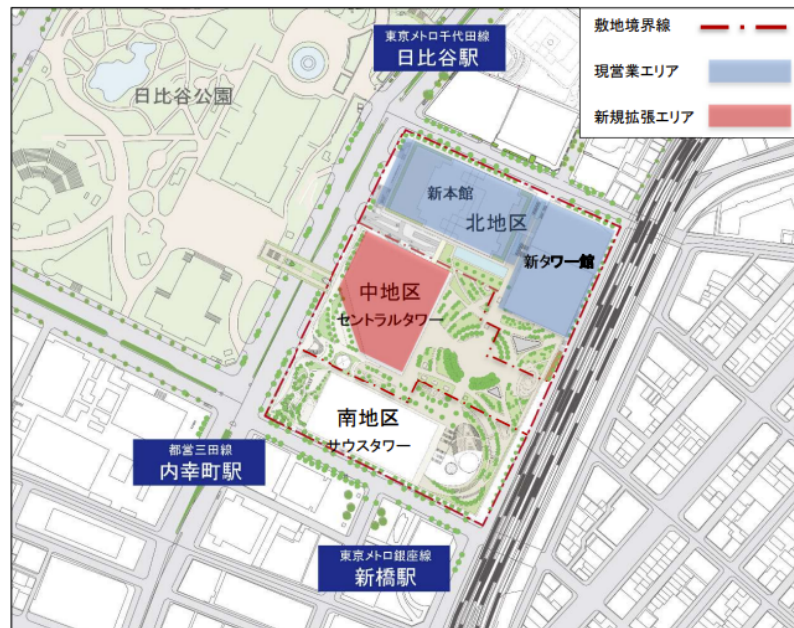
帝国ホテル 京都（本棟）完成イメージ

中長期経営計画2036

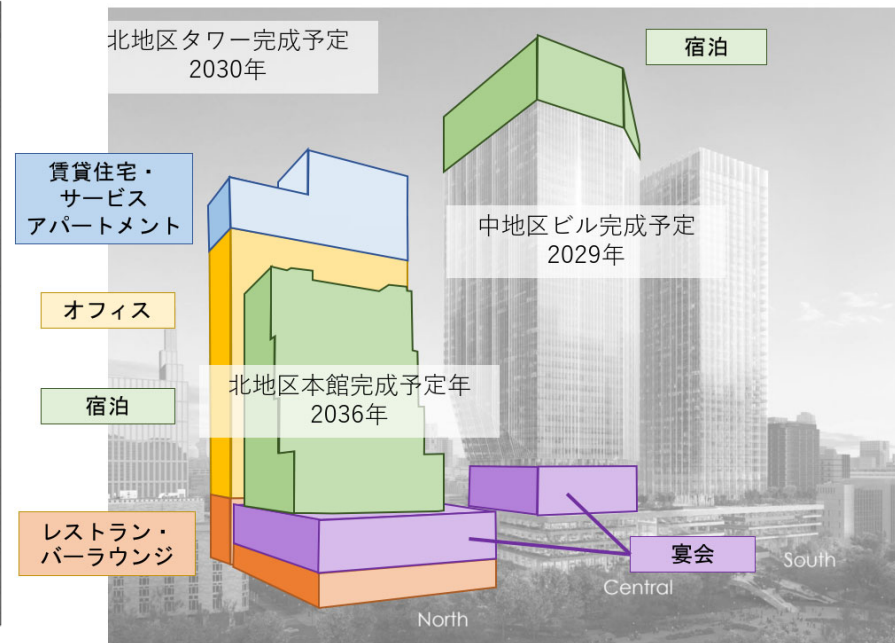
帝国ホテル再開発計画概要②

東京事業所の建て替えを含む「内幸町一丁目街区開発プロジェクト」

2024年から2036年にかけて実施予定の旗艦ホテルである帝国ホテル 東京の建て替え計画において、現在の本館及びタワー館に加え、「TOKYO CROSS PARK構想(内幸町一丁目街区開発プロジェクト)」のパートナーシップによって街区内 中地区に営業エリアを拡張し、帝国ホテルの宴会事業と、新たにホテル事業を展開することで成長的に営業を継続することを決定しています。



街区の俯瞰図



※完成予定年は計画策定時点のものであり、今後の検討により変更となる場合があります

中長期経営計画2036



IMPERIAL HOTEL

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

資本コストを上回る資本収益性を確保し、企業価値の持続的な向上を図ることを意識して経営に取り組んでいます。

(1) ROE（自己資本利益率）

① ROEの推移

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
6.4%	4.0%	△26.9%	△18.8%	5.0%	8.1%	5.9%

②今後の取り組み

$$2024年度実績 \text{ ROE } 5.9\% = \frac{\text{当期純利益率 } 4.9\%}{\text{総資産回転率 } 0.8\text{回}} \times \text{財務レバレッジ } 1.5\text{倍}$$

- ・ 提供する商品やサービスの質を一層向上させ、売上げの伸長を図る。
- ・ 「帝国ホテル 京都」などの新規事業への挑戦や業務受託の拡大を継続する。
- ・ ITの活用による業務の効率化、原材料費のコントロールにより経費削減に努め利益率の向上を図る。
- ・ 再開発計画を実施する中で、幅広い資金調達手段を検討する。

(2) PBR（株価純資産倍率）

① PBRの推移

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
2.02倍	1.49倍	2.57倍	2.80倍	2.84倍	2.71倍	2.34倍

②今後の取り組み

$$2024年度実績 \text{ PBR } 2.34\text{倍} = \text{ROE } 5.9\% \times \text{PER } 41.0\text{倍}$$

（※PBRとROEの算出に用いる純資産額の差異により、上記数式は完全には一致いたしません。）

- ・ 中長期経営計画2036、再開発や帝国ホテル京都など、成長性・収益性を意識した戦略を発信し、IR強化に努める。
- ・ 人的資本への積極的投資や健康経営、脱炭素ロードマップの着実な実行など、サステナビリティの推進に取り組む。
- ・ 取締役会、指名報酬諮問委員会の実効性向上などのガバナンス体制の強化に取り組み、株価への意識を高めるべく役員向け株式報酬を導入予定である。

今後の見通し



IMPERIAL HOTEL

■事業環境

今後も、地政学的な緊張のさらなる高まりや世界的な通商政策の混乱など、先行き不透明な状況が続くものと想定され、継続する原材料費や労務費の上昇などと合わせて我が国の景気を下押しする懸念がありますが、当面は賃上げ継続に伴う所得環境の改善などを背景として個人消費は堅調に推移することが期待されます。

■各取り組み

1. 中長期経営計画2036

「中長期経営計画2036」は、フェーズⅡを迎えており、一部営業を継続しているタワー館など、帝国ホテル本社の資産を最大限有効に活用していくことで売上げと利益の最大化に努めてまいります。

帝国ホテル大阪では開幕した2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に伴う賓客や訪日外国人客を万全の態勢でお迎えし、上高地帝国ホテルでは引き続き高品質なサービスを提供してまいります。

帝国ホテル東京の建て替え計画につきましては、内幸町一丁目街区の再開発計画の進捗状況や近時の社会環境などに鑑み引き続き検討を行っていますが、今後も帝国ホテルブランドが50年、100年と継続していけるよう、本計画の推進を最重要課題と認識して取り組んでまいります。

4軒目の帝国ホテルブランドとなる「帝国ホテル 京都」につきましては、2026年春の京都祇園での開業に向けて建築工事を着実に進めており、新組織を発足するなど社内体制を整備し、4月1日には総支配人及び料理長が就任いたしました。

2. 人的資本への投資など

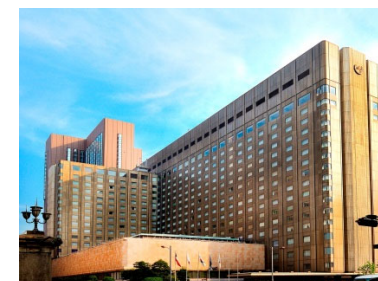
人的資本への投資として、ベースアップを含む継続的な賃上げや従業員の健康維持・向上に資する各種施策を推進いたしました。こうした取り組みが評価され、3月10日に経済産業省の「健康経営優良法人ホワイト500」に認定されました。引き続きSDGsの各課題に取り組み、持続的成長とともに企業としての社会的責任を果たしてまいります。

企業情報



IMPERIAL HOTEL

社名：	株式会社帝国ホテル
本社所在地：	東京都千代田区内幸町1-1-1
創立年月日：	1887年(明治20年)12月14日
開業年月日：	1890年(明治23年)11月3日
上場年月日：	1961年(昭和36年)10月2日
代表取締役社長：	風間 淳
資本金：	14億8500万円
発行株数：	118,800,000株(2025年3月31日現在)
従業員数(連結)：	1,813名(2025年3月31日現在)
主要な事業所：	帝国ホテル 東京、帝国ホテル 大阪、上高地帝国ホテル、ザ・クレストホテル柏



帝国ホテル 東京



帝国ホテル 大阪



上高地帝国ホテル

主な連結子会社

(株)帝国ホテルエンタープライズ	コミュニティホテル(ザ・クレストホテル柏)運営 等
(株)帝国ホテルサービス	ホテル付帯サービス(清掃・警備) 等
(株)帝国ホテルハイヤー	旅客自動車運送、駐車場管理

関連会社

(株)帝国ホテルキッチン	調理食品製造販売
(株)ニューサービスシステム	バンケットサービス 等